

# 感謝の気持ち

一宮市立瀬部小学校五年

磯村

優



超高い化社会の日本。

ぼくの身近にも、お年寄りがたくさんいます。

まず、ぼくのおじいちゃん、おばあちゃん。そして、近所にも多くのお年寄りが暮らしています。

ぼくのおじいちゃんは、今年八十三才、おばあちゃんは、七十六才になります。今は、二人とも元気で、毎日地下鉄に乗り、あちらこちらに出かけます。でも、おじいちゃんは、歩くのがおそいです。ぼくは、走ってどこまでも行けるけど、おじいちゃんはむずかしいです。

ある日、「どうして歩くのがおそいの。」と聞いてみました。「長い間立ち仕事をしていたので、ひざが悪くなり無理をすると、痛みが出るんだよ。」と話してくれました。おじいちゃんは、中学を卒業してすぐに自分で仕事を始め、六十年間ずっとがんばっていたので、無理がひざに出てきたみたいです。

その話を聞いてから、ぼくはおじいちゃんの歩くスピードに合わせて、走るのをやめました。ぼくがおじいちゃんに合わせて歩くことでおじいちゃんと、歩きながらおしゃべりする楽しみを知りました。

おばあちゃんは、今年になってから耳が遠くなってきました。少し遠くから「おばあちゃん」と呼んでも気付いてくれません。テレビの音も二部屋先まで聞こえる音でかけています。昨年までは、耳が遠いとは思わなかったので、ぼくは、少しショックでさみしい気持ちになりました。

た。

おじいちゃん、おばあちゃんは、七年前まで、二人三きやくで、日曜以外お休みもなく働いてきました。そのお金でぼくにおもちゃを買ってくれたり、旅行に連れていってくれたりします。

これからはぼくにできること、助けられることを見つけて、どんどんお手伝いしていきたいと思います。大切なおじいちゃん、おばあちゃんが、いつまでも元気でいてくれるように思いやりをもって接していきたいです。

そして、ぼくは近所の方、地域のお年寄りの方々にもお世話になっています。

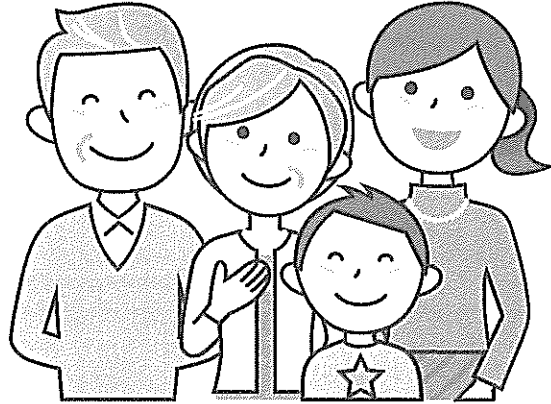
特に、毎日の登下校を見守ってくださるボランティアの方には、とても感謝しています。ぼくたちの通学団は、五人しかいないので、帰りに、一人になってしまうこともあります。そんな時、ボランティアの方が、道で待っていてくださるととても心強いです。雨の日も、とても暑い日も来てくださるので、本当に感謝しています。

ぼくは、お母さんから、「あいさつは、知らない人にもきちんとしたほうがいいよ。」と言われていました。毎日夕方に、バットの素振りをしていぼくは、お散歩している人にもいつも大きな声で「こんにちは。」とあいさつをします。そうしていたら毎日会う人には、だんだん話しかけられるようになりました。

「ぼく、毎日がんばっているね。」とか「良いスイングだよ。将来が楽しみだね。」とか言ってもらえるようになりました。ぼくは、すごくうれしくなりました。

「こんにちは。」の一言が、知らない人とも話すきっかけになるのは、すごいなと思います。これからも、自分から進んであいさつをしていきたいと思っています。

ぼくのおじいちゃん、おばあちゃん、地域のお年寄り、日本中のお年寄りが、これからも幸せに暮らせる社会であってほしいです。



ほくにもできることをしっかりと考えて行動していき、感謝の気持ちを  
持ち続けていきたいです。